臨床薬理学

共通科目

4.主要薬物の安全管理と処方の理論と演習

演習

宮崎大学医学部附属病院 薬剤部部長

池田 龍二 氏

Faculty of Medicine, University of Miyazaki Hospital

演習「主要薬物の安全管理と処方の演習」

宮崎大学医学部附属病院 薬剤部
平原 康寿、池田 龍二

Faculty of Medicine, University of Miyazaki Hospital

演習①　　有　害　事　象

症例　①

６８歳・男性

- 外科で手術目的のため入院
- 周術期抗菌薬として院内パスより「セファメジンα」がオーダーされた
- 調剤した薬剤師より、薬歴より「セファゾリンナトリウム」にアレルギー歴があることが分かり疑義照会した

問題点

・アレルギー歴への対応
・処方時の確認
・実施時の確認
・薬剤アレルギーについて

Faculty of Medicine, University of Miyazaki Hospital

演習②　　休　薬

症例　②

57歳・女性

- 外科で手術目的のため入院
- 狭心症の血栓・塞栓形成の抑制のため、他院内科より「アスピリン錠100㎎」を服用していた。
- 入院時のカルテより、「7日間休薬指示あり。明日予定通りオペとする」と記載があった。
- 薬剤師による入院時面談において、休薬していないことが判明。主治医へ伝え、オペは延期となった。

問題点

・休薬が必要な薬剤の把握
・入院前の確認
・入院時の確認

演習③　　医療器具（デバイス）

症例　③

７０歳・男性

- 交通外傷による骨盤骨折のため入院
- 喘息発作の既往があり、院内で吸入薬がオーダーされた。
  〔フルチカゾン+ウメクリジニウム+ビランテロール〕

- Nsは日頃も使っていると思い、「1日1回使ってください」とだけ伝えた。
- 翌日、吸入薬の残量を確認したところ大幅に減っていた。
- 患者は、いつも通り「きつい時」に数回（5回程度）使ったと回答した。
- バイタル測定より、軽度の頻脈がみられ経過観察となった

問題点

・吸入薬の分類
・吸入薬の指導
・薬剤師不在時の対応